

## 29. 大崎半島の流紋岩類

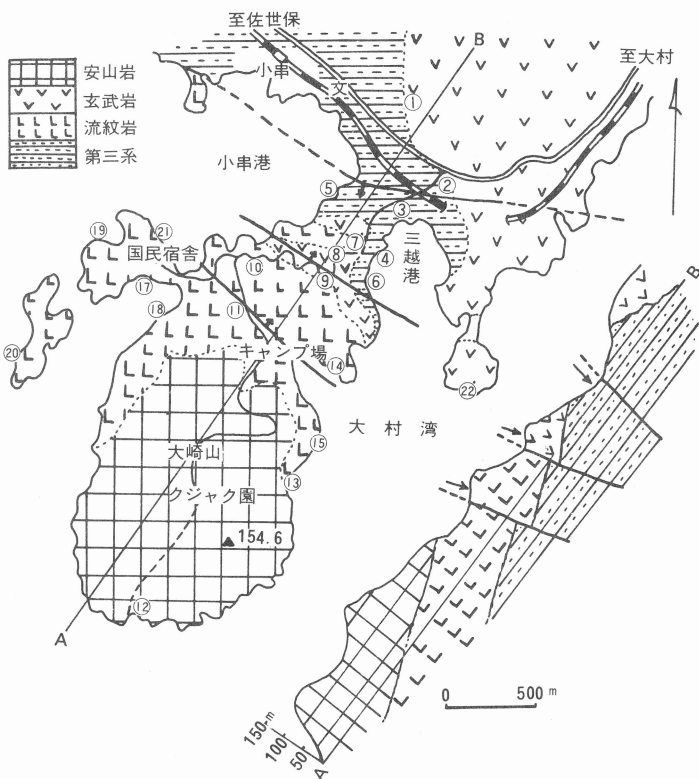
地 域	東彼杵郡川棚町小串
交 通	国鉄大村線 小串郷駅下車 西肥バス 小串小学校前下車（急行も停車）
地形図	川棚（1/50,000），川棚（1/25,000）

小串小学校前の国道 205号線にたつと、すぐ北方に採石場がある。  
①この岩石は川棚町北西の弘法岳・白岳・南風崎北方白石岳を中心に広く分布するかんらん石玄武岩であるが、何枚かの溶岩流があり、玄武岩にも数種のタイプがある。

この採石場から南を展望すると、大崎半島が大村湾に突出し、一帯が美しい景観である。そして地形も概観することができよう。国道におりるとドライブインがある。ここらは、かつて地すべりが何回かあったところであるが現在は動いていない。国道を東に進むと、大崎半島クジャク園入口の標柱と半島全体の案内図がある。ここで半島の地形やルートを知ることができる。観光道路はクジャク園まで続く。

大崎半島一帯の基盤は、古第三紀漸新世（4,000万年～2,500万年前）に堆積したもので、杵島層群と呼ばれる砂岩、けつ岩を主とし、凝灰質砂岩をともなった地層である。この堆積岩の上に流紋岩安山岩・玄武岩等が噴出して大崎半島を形づくっている。

一般的にNW-S E方向のいくつかの断層が平行して半島を横切っている。しかし人によってその位置や方向にちがいはある。針尾島北半部、南風崎、本地域にわたる酸性火山岩類の分布は断層線に密接な関係を有しており、断層の弱線に貫入噴出したと推定されている。時代は、新第三紀中新世（2,500万～1,000万年前）であろ



大崎半島の地質図

うといわれる。各地でそれらの岩脈が基盤の堆積岩を貫いている露頭がある。

採石場①付近の堆積岩は、杵島層群の中の木原砂質けつ岩層と呼ばれる砂質けつ岩を主とした比較的やわらかい単調な地層である。クジャク園入口②では、木原砂質けつ岩層の下位にあたる原明凝灰質岩層と思われる赤褐色～淡白色の露出がある。観光道路を下り鉄道を越えた付近から、向いの小高い山ぎわまで蔵宿砂岩層の新しい露出があり、淡褐～淡緑色の細～中粒で比較的やわらかい、軟弱な

凝灰質の薄層をはさんでいる。道路上では走向・傾斜の測定が困難であるが、三越港④と小串港⑤の海岸にでると層理がはっきりして測定される。走向N80°W、傾斜10°S、三越港の海岸をしばらく歩くと（干潮時がよい）、砂岩れきを捕獲した流紋岩質の岩脈が堆積岩の地層を切っている。幅約2mでNW方向の露頭⑥は、その上の観光道路に連続していると思われる。

小高い山ぎわの切り通しを過ぎ右へカーブするころ⑦、岩脈や落差約2mのかわいい正断層がある。さらに堆積岩の地層と玄武岩風化帯の不整合もある。さらに少し進むと、小さい玄武岩れきをふくむ赤褐色の玄武岩風化帯となる。その上位⑧に風化した灰白色の凝灰岩がのっている。これより先、玄武岩風化帯の畑を左右にみる。この畑の中に石英の円れきが散在し、この意味を考えてみるのも面白い。畑が左に過ぎる頃、かんらん石玄武岩の黒い岩体がある。谷にさしかかり右へカーブする左側⑨に、この大崎半島を形づくる流紋岩の露頭がはじめて出る。流理が鮮明で多孔質でかたく、黒雲母石英・長石の小斑晶がある。これより先、国民宿舎入口まで、流紋岩の風化・玄武岩の風化・凝灰岩・凝灰角れき岩などさまざまな新しい露出がある。途中⑩で全体が赤味をおび、基質がクリーム色で黒雲母の斑晶がはっきりする流紋岩の岩体がある。また注意していると黒曜石の細れきが土の中に散在している。国民宿舎入口から、キャンプ場入口上⑪まで基質がクリーム色をした角せん石を少しふくむ流紋岩がある。坂道を上り右手の上方に崖を見上げるころから、粗粒で黒い斑晶がある転石がある。これよりクジャク園を通りぬけ、半島の南端までこのような、表面は一見花こう岩みたいな粗粒の火山岩があつて、含角せん石流紋岩または黒雲母石英安山岩と呼ばれる。鏡下では、有色鉱物として黒雲母・角せん石・普通輝石をみることができる。

半島南端にでるとこれらの火山岩が露出し、また大岩塊があつて海食をうけすばらしい奇岩がみられる。下りたすぐ東側⑫に黄褐色の細粒砂岩層が一部露出し、それを灰白色粗粒の流紋岩質の円れき

がおおう、れきはこぶし大以上のものもある。干潮時であれば、海岸を東に岩塊の上を伝いキャンプ場にぬけることができる。途中は同じような岩塊があって岩相に変化はみられない。しかし、⑬あたりで黒曜石の大きい脈がある。南端から西の方へもぬけることができる。

キャンプ場の東では、外見上いろんな色をした、ち密でかたい黒雲母の大きい斑晶の岩体がある。一か所に幅約70cmの黒曜石の脈が流紋岩にはさまれている。また砂岩れきが捕獲されている箇所⑭がある。この一帯の海岸のれきの中になんかなり大きい黒曜石が散在する。⑮では黒曜石粒が帯状に点在したり、大小さまざまの球状顆粒をもつ、球顆流紋岩？があり興味深い。また海食洞（一部人工的？）を通りぬけキャンプ場から東へ、流紋岩特有の産状を見ながら、神社の鳥居⑯付近にくる。堆積岩上に中粒白色の凝灰岩がのり、その上に小れき層がのる。れき種は安山岩・砂岩・流紋岩・石英・黒曜石と少量の結晶片岩とチャートである。その上をかんらん石玄武岩がおおい、れき層に熱変成を与えている。ここは、それらの関係を観察するのに興味深いところである。またここでみるれき層は目立港一帯⑰～⑱にも露出し、層序を検討するのに必要なところである。⑳東の片島は、大崎半島を縮小したような岩体が露出している。本地域は、地学の野外実習・標本採集には好適の場所であり、クジャク園・キャンプ・水泳・つりなどレクリエーションのかたわら、勉強することができ、交通の便も大変よい。ぜひ一巡したいところである。

(山下信之)